

■コメント

1 インフルエンザ

定点当たり11.26人の報告がありました。減少傾向でしたが再び増加しており注意が必要です。また、インフルエンザ様疾患による学級閉鎖等が22件報告されています。引き続き、手洗い、咳エチケット、適度な湿度の保持、換気などの感染予防対策を徹底しましょう。

迅速診断キット検査結果(市内2か所の協力医療機関による) 第4週 A型・35人 B型・40人

2 感染性胃腸炎

● 感染性胃腸炎
　定点当たり7.95人の報告があり、前週の約1.4倍に増加しました。冬季はノロウイルスなどによる感染性胃腸炎が増加します。ノロウイルスは、感染者の便や吐物に多く含まれ、飛沫や人の手などを介して経口感染します。こまめな手洗い、便・吐物の適切な処理など、感染予防対策を徹底しましょう。

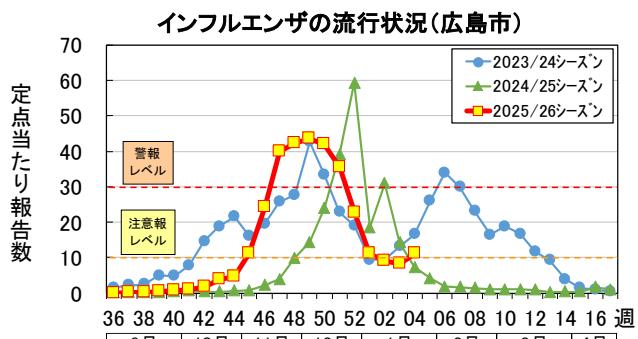
3 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

定点当たり2.52人の報告がありました。感染経路は、飛沫感染や接触感染で、2～5日の潜伏期を経て、突然の発熱、のどの痛み、舌苔などの症状が現れます。手洗い、咳エチケットなどの感染予防対策を心がけましょう。

4 腸管出血性大腸菌感染症

8件の報告があり、今年の累計は13件となりました。(次ページ参照)

■ 定点把握感染症報告状況(週報対象)



報告数が少数の場合などは、発生記号を記載していません。

急性呼吸器感染症(ARI)定点数 (内科・小児科)	34
小児科定点数	21
眼科定点数	8
基幹定点数	6

(注)過去5年間の同時期平均
(定点当たり)

■全數把握感染症報告狀況

類型	疾患名	報告数	累計	備考
3	腸管出血性大腸菌感染症	8	13	10歳未満・O103・1人、10歳代・O6・市外・1人、 10歳代・O157・1人、20歳代・O157・3人、 30歳代・O157・1人、50歳代・O血清群不明・1人
5	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1	1	50歳代
5	梅毒	1	3	20歳代

■定点把握感染症報告状況(週報対象)の推移

		急性呼吸器感染症 (ARI)	インフルエンザ (A型)	COV型 感染症 (B型)	RSV ウイルス	咽頭結膜熱	球菌溶血性咽頭炎	A群溶血性链球菌	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ	クラミジア肺炎	口タウイルス	感染性胃腸炎
報告数	広島市	第52週	2,661	797	16	19	7	62	84	5	6	2	5	1	-	-	8	-	-	12	-	-	
		第1週	665	243	4	1	-	7	7	2	1	2	1	-	-	-	-	-	-	23	-	-	
		第2週	1,802	303	12	8	6	38	101	11	-	2	5	-	-	-	7	-	-	9	-	-	
		第3週	1,751	279	12	10	3	49	121	4	1	2	5	-	-	-	4	-	-	12	-	-	
		第4週	2,557	383	19	13	4	53	167	9	-	-	2	-	-	-	1	-	-	3	-	1	
定点担当たり	広島市	第52週	76.03	22.77	0.46	0.86	0.32	2.82	3.82	0.23	0.27	0.09	0.23	0.05	-	-	1.00	-	-	2.00	-	-	
		第1週	30.23	11.05	0.18	0.09	-	0.64	0.64	0.18	0.09	0.18	0.09	-	-	-	-	-	-	3.83	-	-	
		第2週	53.00	8.91	0.35	0.38	0.29	1.81	4.81	0.52	-	0.10	0.24	-	-	-	0.88	-	-	1.50	-	-	
		第3週	51.50	8.21	0.35	0.48	0.14	2.33	5.76	0.19	0.05	0.10	0.24	-	-	-	0.50	-	-	2.00	-	-	
		第4週	75.21	11.26	0.56	0.62	0.19	2.52	7.95	0.43	-	-	0.10	-	-	-	0.13	-	-	0.50	-	0.17	
	全国	第2週	53.38	10.55	1.58	0.53	0.28	2.03	5.77	0.57	0.04	0.37	0.25	0.02	0.03	0.01	0.65	0.02	0.03	0.66	0.01	0.03	
		第3週	48.91	11.33	1.54	0.62	0.22	2.22	6.68	0.31	0.04	0.26	0.24	0.02	0.02	0.01	0.44	0.01	0.02	0.51	0.01	0.04	

■新たに判明した病原体検出状況

感染症発生動向調査に基づく病原体定点医療機関からの搬入分(ARI分を除く)のみ掲載

診断名	主症状	年齢	発症年月日	検査材料	検出病原体
感染性胃腸炎	嘔吐下痢 肝機能障害	9	2025/11/24	糞便	サボウイルス
感染性胃腸炎	嘔吐 下痢	3	2025/12/11	糞便	サボウイルス
伝染性紅斑、手足口病	丘疹 紅斑	1	2025/11/17	咽頭拭い液	アデノウイルス2型

(検査:広島市衛生研究所)

■病原体検出状況(ARIサーベイランス)

感染症発生動向調査に基づくARI病原体定点医療機関からの搬入分のみ掲載

検体採取週	検査検体数	陽性検体数*	イフツルンザウイルス	A型RSVウイルス	B型RSウイルス	ヒトメタニコモウイルス	パラインフルエンザウイルス1型	パラインフルエンザウイルス2型	パラインフルエンザウイルス3型	パラインフルエンザウイルス4型	エンテロウイルス	アデノウイルス
第51週	15	8	4	1				1			3	
第52週	18	11	6					2			4	2
第1週	0	0										
第2週	16	9	3	2	1			1			2	1
第3週	15	7	3	1	2						1	

* 同一検体からの複数ウイルス検出例を含む (検査:広島市衛生研究所)

詳しくはホームページで 広島市 病原体 検索

【参考】腸管出血性大腸菌感染症に注意しましょう!!

腸管出血性大腸菌は、菌に汚染された食品を食べたり、患者の糞便に含まれる菌が手指等を介して口から入ることで感染します。症状は、全くないものから激しい腹痛、血便や重篤な合併症を起こし、時には死に至るものまで幅があります。例年夏から秋にかけて報告数が多くなる傾向がありますが、ほかの季節でも発生がみられ、年間を通じて注意が必要です。

予防のために、次のことに注意しましょう

- ◆ 加熱が必要な食品は十分に加熱しましょう。
- ◆ 生野菜や調理器具は十分に洗浄しましょう。
- ◆ 調理の前、食事の前、トイレの後、排泄物の処理をした後などは、せっけんと流水で十分に手を洗いましょう。

【参考】腸管出血性大腸菌Q&A(厚生労働省)

<https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000177609.html>



本週報は、速報性を重視していますので、今後調査などの結果に応じて若干の変更が生じることがあります。なお、感染症情報の詳細についてはホームページでご覧いただけます。

<https://www.city.hiroshima.lg.jp/living/eisei/1003071/index.html>



【問い合わせ先】

広島市感染症情報センター/広島市衛生研究所 〒733-8650 広島市西区商工センター四丁目1番2号
TEL (082) 277-6575 FAX (082) 277-5666 E-Mail ei-seikatsu@city.hiroshima.lg.jp